

25 中川哲哉 乾漆盆

一点

昭和二年(一九二七) 乾漆、漆塗  
径四六・〇 高六・九

乾漆の技法による素地に漆塗りだけの、器としての造形と漆の塗りの魅力を追求した作品である。器の形は宋・元代に舶載された輪花形の器物や日本で作られた唐物写の輪花盆を範としており、古典作品を意識しながらも力強い曲線と多面を組み合わせた乾漆ならではの造形を示している。塗りは艶やかな潤みである。帝展に工芸部門が創設されて初めて工芸家の帝展への参加が実現した、昭和二年の第八回帝展に出品され、宮内省の買上を受けた。漆塗りは、蒔絵などの装飾の技術に比べ表立つて評価されることが少なかったが、大正末から昭和初期にかけて、乾漆による素地と塗りだけの作品が農展(農商務省工芸展のちに商工省工芸展)などで発表されるようになっていった。乾漆技法により素地形成から塗りまで一貫して作家一人が手掛けるという、漆工のなかでは新しい傾向の作品である。

作者の中川哲哉(一八九七〜一九七〇)は、山形県天童市に生まれ、大正元年に郷里をでて、中村宗哲、植松包美ら仙台や東京、京都、大阪など日本各地の著名な漆芸家を訪ね、大正八年には六角紫水に師事、後に東京で独立した。東京府展、日本美術協会美術展へ出品、大正十三年の農商務省工芸展では褒賞を受け、その後、帝展や新文展、日展に出品を続けた。独自に工夫した乾漆素地に、伝統的な黒と朱の漆塗りを基本とした洗練された造形美をもつ作品を数多く制作している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 50

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections